

参考資料3. 歴史文化・景観資源等の解説

●おかげ燈籠（大神宮の高燈籠）

大和平野を東西に貫通する伊勢街道を東から高田に入る位置に、高燈籠が建っています。

往時、旅の道しるべとして明かりが入れられたもので、伊勢大神宮をめざす「おかげ参り」は、この前を幾百、幾千の大群衆となって通ったことと思います。

●専立寺

専立寺は「高田御坊」といわれ1600年の創建。

蓮如による大和布教以来の道場を本願寺専属の掛所御坊としたもの。領主桑山氏は、専立寺を中心に寺内町を発展させ、今日のあきないのまちの礎をきずきました。

●高田城址

高田城は1432年（永享4年）、当麻為貞によって築かれ、1580年（天正8年）に筒井順慶の侵攻によって破却されるまで、戦国動乱の時代、150年間、現在の市の中心部にあり、強盛をほこりました。今、この地には、常光寺に隣接して、榎の大木とともに、石碑が建てられ、往時をしのばせます。

●築山古墳

古墳時代の最盛期、5世紀頃に築かれた前方後円墳。水濠を加えると261メートル。武烈天皇陵と伝えられていますが、被葬者はいまだ特定されていません。

●天神社

創建は古く、社伝によると古代にさかのぼりますが、棟木には「1222年（貞応元年）當麻宗正」の名がみえ、その後、今日まで造替が続き、高田一円の氏神として親しまれています。

●天満神社

主神は菅原道真で、棟札には「永禄7年越智家高」とあることから、1564年創建とされます。境内には黄金塚と呼ばれている平安前期の

層塔二基があります。

隣には、当神社の神宮寺であった安楽寺跡があり、十一面観音を安置し、堂前には越智家栄の法華経読誦記念碑が建っています。

●藤森環濠集落

大和平野の中心部には、水利と防衛のために、濠（堀）をめぐらし、竹を植えた環濠集落が多く存在しましたが、市内には、有井、池尻、松塚、土庫、岡崎、磯野など、多くの環濠集落があり、今は、藤森環濠集落が最もよくその姿をとどめています。

●不動院

昔、金輪山證菩提寺といい、聖徳太子の創建で、三町四方、七堂の大伽藍であったといわれています。

1483年、高田城主當麻為長が本堂を建立し、現在は本市唯一の重要文化財で、本堂は、五間四面の寄棟造、本瓦葺き。

本尊は、鎌倉時代の秀作、大日如来。

●名称寺

名称寺は、本願寺第三代覚如宗主が1335年に和州百濟二條道場として建立し、1455年、現在の曾大根に移築。石山合戦には、織田方の軍勢とも戦っており、当時の掘割は今も、残っています。

春には、つつじの花が美しいです。

●龍王宮

龍王宮は、石園坐多久虫玉神社といい、市内で唯一の延喜式内社。本社は安寧天皇の片塩浮孔宮跡と伝承され、付近からは、土器、木棺、埴輪、七鈴鏡などが多数発掘されています。

※本解説は「新・高田物語（大和高田市観光案内）」の中から引用しています